ルート配送機能 追加

着時間、温度情報を管理

トランストロン

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、加藤祐三社長）は一月から、ネットワーク型デジタル式タコグラフ（運行記録計）「DTS－C1」などで使えるクラウド型運行支援サービスに「ルート配送機能」を追加した。

配送先到着時間や店着時の温度などルートごとの予定と実績を「見える化」することで、ユーザーは輸送品質やサービスレベルを向上できる。ドライバー、運行管理者、荷主からの問い合わせ担当者の負担も軽減する。

今回の機能追加は年二回ほど行う運行支援サービス「ITP－WebService」の拡充に伴うもの。過去にも夜間積み置き時に保冷車の荷室温度を監視する機能の追加など、ソフトウエアの定期的なレベルアップに努めてきた。

早配や遅配で音声警告

ソフトの導入・設定などは富士通のネットワークとクラウドを使って自動化。初期費用だけでなく導入後のコスト負担も軽減した。月々定額の料金で追加された機能を利用できるのもサービスの魅力の一つだ。

ルート配送機能は厳格な配送管理が求められるユーザーの声を反映した。運行管理者は事前に配送ルートや到着時間、店着時の温度を設定。ドライバーの到着が設定時間よりも早過ぎたり、遅過ぎる場合はアラームが作動する。温度はセンサーで常時測り、事務所からリアルタイムに確認できる。配送中に異常があればドライバーに警告する。

ネットワーク型デジタコは動態管理の機能があるものの、配送が予定どおり進んでいるか確認する仕組みはなかった。サービス開始以降、「食品配送事業者を中心に利用が増えている」と情報機器事業推進部の田中充部長。最近は雑貨、新聞、雑誌を扱う事業者からの引き合いもあるという。

また「管理者が遅配や温度管理の情報を常時確認できることで、ドライバーの負担軽減にもつながっている」（田中部長）。ドライバーが配送先で作業を始めると、管理者にはGPS（全地球測位システム）を使って荷室ドアを開いた場所と登録ルートをマッチングした情報などが送られる。

おととし発売されたDTS－C1D。サービスも拡充し、販売も好調に推移している

負担軽減で安全運転に寄与

配送先に到着する度、ドライバーに店着と温度報告を義務付けていた事業者も、サービス導入後は報告が不要になった。ドライバーは運転に集中でき安全にも寄与する。

利用料はDTS－C1の場合、運行管理や地図ソフト、Q&Aサービスなどを含め月額二千四百七十八円。ドライブレコーダーを搭載したDTS－C1Dは二千七百九十三円（どちらも一車両当たり）。

問い合わせ先は同社情報機器営業部、電話045（476）4640。

（小林　孝博）